

審議会等の会議結果報告書

【担当課】 文化財課

会議の名称	令和5年度 第1回茅野市博物館協議会		
開催日時	令和5年6月27日（火）午前10時00分～午前11時30分		
開催場所	八ヶ岳総合博物館 実験工作室		
出席者	河村洋委員長、市川純章委員、小林正八委員、両角紀子委員、松本光夫委員、両角茂子委員、池田啓子委員、黒田嘉孝委員、小川博子委員、山田利幸教育長、上田佳秋生涯学習部長、小池岳史文化財課長兼尖石縄文考古館長、山科哲同考古館係長、両角徹生八ヶ岳総合博物館長、正木美香同博物館係長、柳川英司神長官守矢史料館担当、		
欠席者	白鳥保美副委員長、小林俊男委員、田中正行委員、矢崎進一委員、鶴飼幸雄神長官守矢史料館長		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
生涯学習部長	<p>1 開会</p> <p>本日はお忙しい中お集まりをいただきまして誠にありがとうございます。また常日頃、茅野市の教育行政にご協力をいただきまして誠にありがとうございます。それではただいまより令和5年度第1回茅野市博物館協議会を始めさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。</p>		
教育長	<p>2 委員の任命</p> <p>3 教育長挨拶</p> <p>皆さんこんにちは。コロナの3年間、いろいろ苦しかったわけです。その中で、全国の博物館は、活動を縮小したり、或いは廃止されたりした施設がいくつかあります。そんな中でしたが、皆様方と、市民の皆様のお力で、茅野市の誇る3つの博物館、私は今までよりも、コロナ前よりも充実してきたのではないかと考えています。皆様方、ありがとうございます。そしてこれからも教育行政にお力をお貸しください。まず一番最初に茅野市が誇る尖石考古館ですが、縄文の精神を、一人一人が賛美、その中で、体験とか学習を深めまちづくりにつなげていく。そして、例年秋には、宮坂英式先生の縄文学の賞が贈られます。私どものような素人でも賞を受賞する方々の論文の概略を見るたびに、縄文学がかなり進歩してきている、そんな感じがいたします。縄文学の「総本山」になりつつあると思います。それから、総合博物館、ちょうど総博ができた2～3年後だと思うのですが、私は、4年生たちとここにバスで見学にきました。そのとき中の展示を見たときの感激やショックっていうのがずっと続いております。諏訪地方唯一の自然系の博物館、そして何よりも、市民研究員の方がいらっしゃる、またプラ</p>		

	<p>ネタリウムがあるということ、その中でますますこれからこの博物館の価値が高まっていくと思います。学びの拠点でもあります。神長官守矢史料館であります、昨年度入場者は今までの最高でした。コロナであっても、減りませんでした。そして、私が一番驚いたのが、かつては、年配の学者肌の方が見えられていたのですが、20代後半から30代前半の若いカップルが来ているんですね。カップルなんて失礼な言い方ですけど、それで2人で真剣に古文書を見ていきます。時代が変わってきたのか、新しい世代が生まれてきたのかなあとと思います。前宮から本宮にかけての西山一帯の学術ゾーンをぜひ作り、その拠点になっていったらと思います。以上申し上げましたが、私たち茅野市民が誇る3つの博物館について、今日は、令和5年度の事業計画についてご説明申し上げますので、どうか忌憚のないご意見をお願いいたします。市民の皆さんが、じっくり自分の学びを深める穏やかな空間、それを目指して参りたいと思います。どうか本日よろしくをお願いいたします。</p> <p>4 委員及び職員自己紹介</p> <p>5 茅野市博物館協議会設置条例について</p> <p>6 協議事項</p> <p>(1) 正副委員長の互選について 委員長 河村 洋 氏 副委員長 白鳥 保美 氏 が選出される。</p> <p>(2) 審議会等の会議の公開について 協議に先立ち、茅野市博物館協議会設置条例について事務局から説明。 協議に先立ち、協議会の公開について事務局から説明。 ～資料1、資料2の説明～ 本日の会議の公開、議事録の公開について説明及び確認を行い、非公開基準に該当する項目はないため、当会議を公開とします。議事録に関しては、委員名を表示せずにホームページで公開します。 (承認) 了承される。</p> <p>(3) 各館 令和5年度事業計画について 資料に基づき、年間事業報告について事務局から説明を行う。 ・尖石縄文考古館(考古館長) 質問です。いつもながらの充実した計画ありがとうございます。縄文の検定資格がこれまでより少しやさしくなり、地域外の交流で広がっているということにつきまして理解しました。あとは、大学生に、縄文検定を受けさせてあげたいと思います。一時期休止していた時期があったので、復活を期待していました。学生に声をかけてみたいと思います。 その次の登録商標は、誰にどんな用途のものに許可を出しているのでしょうか。</p> <p>考古館係長 登録商標の申請ですけれども、先ほど館長から、北海道の博物館に今年度、資料貸し出す話がありました。それに合わせて、グッズを作る業者さんが</p>
--	--

	<p>いらっしゃいます。例えばポストカードやクリアファイルや付箋等の文房具が多いですが、そういったものに対しての、商品名に「縄文のビーナス」とか「仮面の女神」が入る場合に、登録商標となっていますので、使用許可申請をお願いしますということをやっています。それ以外にも最近、縄文のグッズを作る個人の方もいらっしゃいます。ぬいぐるみや、食品もあるのですが、そういったものにつきましても、登録商標をしている商品区分というものがあるので、それに該当する場合には、手続きをさせていただいている状況です。</p>
委員	<p>登録商標をとったことについて、何か博物館としての、お考えはありますか。</p>
考古館係長	<p>登録商標を商標登録する経緯は、平成 10 年代だったと思うのですが、とある団体から、こういうことで商品を作りたいということでお話しがあった際に、その団体としてはその登録商標等をとっておきたいとご相談があったようです。それについて、特定の一企業や、個人の方が登録商標をとってしまうと、例えば、「縄文のビーナス」という名前をついたお菓子を作るときに、その団体にすごく使用料が入ることになります。そういう状況になってもまずいだろうということで、市がその団体と相談した上で、市で申請して登録商標をとるという流れがあったようです。現在、市としてもグッズを特に市内業者に限定して、それ以外については使用料をとるとか、そういったところはまだ話が進んでない状況にあります。</p>
委員	<p>わかりました。守るために市が商標をとっておいたことが狙いなのですね。もう一つ無料開館でも何かなかなか市民が利用してくれないという話がありましたが、ひとつのアイデアとして地区とか、行政区とかを対象に、今年はその区の皆様ご招待というふうにピンポイントで当ててしまうのはどうでしょうか？地区には公民館活動もありますし。市民全体に対して「いつでも無料開放があります」というと、「いつでもある」になってしまいそうですが、「今年はこちらの地区の順番だ」となるとその地区で話題になりそう。</p>
考古館長	<p>ご意見ありがとうございます。先生に言われて今思い出したのですが、私もそんなことをイメージしたこともあって、そういったことを、前向きに行っていきたいと思います。分館等もピンポイントで何々地区ってやると、とてもいいと思いましたので、そこを検討していきたいと思います。</p>
委員長	<p>最初に、教育長からコロナの中でもいろいろ工夫してやっていますとありましたが、コロナが開けていったような雰囲気がある中で、今回、事業計画で、コロナを経て何か新しくこういうものが入ってきたということがありましたら、つまり前に戻るのではなくて、新しくこんなものが変わっているということがありましたら教えてください。</p>
考古館長	<p>コロナの期間中、閉館をせざるをえない時期がありました。それで、日本遺産に認定をされているというお話を差し上げましたけれども、日本遺産の取り組みが、地域活性化、観光振興というところに軸足を置いた制度になっております。それで、対象は何かといいますと、やはりインバウンドです。訪日外国人の皆様を、呼び込みたいというような、考えがかなり強く出ている制度でもあります。それに関して、多言語化を、当館の係長を中心に、今、日本遺産登録を受けている市町村が 14 町村ありますが、日本遺産の中でもかなり先進的な取り組みになっております。それぞれの展示物</p>

委員長	<p>のところに QR コードを貼り付け英訳しました。ただ、直訳するとなかなか縄文のエッセンスなんかも伝わりにくいので、そのところは自分苦勞しましたけれども、作りました。その他に、把手のついたような土器がありますけれども、それが当館の持っているものと似たようなものが他の館にもあって、それが日本遺産の構成文化財にもなっているということで、その日本遺産の知名度を上げなければいけないということと、やはり当館に来るお客さんが、長野県では圧倒的に多いわけです。そういった皆さんに、当館の展示を通じて、他館にも足を運んでいただけるように仕掛けをしたりしております。館の展示の充実に繋がるような、そんな活動をコロナの休止を利用して、やって参りました。</p>
委員	<p>はい。ありがとうございます。そういう新しい進歩があることは大変心強く思いました。他にございませんでしょうか。</p>
考古館長	<p>現場で展示室の解説をしまして、確かに県外の来館者が非常に多くて、市民の人が少ないっていうのは、私も感じました。それから縄文教室なんかでもやはり県外からの参加が多いようです。先ほど委員のおっしゃったように、地区別に案内するというようなことは、確かにできることがあるかなと思うのですが、総合計画の縄文プロジェクト中で、やはり市民への関心が自分事ではないと。いうふうな課題を持っておりますので、そういうことを合わせて小学校への派遣というのが、ここに、縄文学習の派遣ということを書いてあるのですが、小学校を実際に考古館に呼んで、市内の小学生とか中学生に説明するということは、実際にあるのでしょうか。</p>
委員	<p>こちらから、縄文検定もやりますというようなご案内を差し上げておまして、その縄文検定のやり方は、考古館の展示物を見ていただいて、その上で検定に臨んでいただくというのを、一貫して貫いております。ですので、一クラスが 30 人ぐらいなので、3クラスある場合には、場所を変えながら同時にスタートしています。それぞれ当館のスタッフがつきまして、40 分ないし 50 分ぐらいで小学 5 年生や中学生にわかるような解説をして、臨んでおります。そういったことはこれまでずっと開催をしております。考古館へ来ていただくための一つのきっかけづくりということですが、やはり本物は考古館に来ないと見られないわけですよね。学校へ持って行くというと、どうしても限られたものしか持っていけないので、できるだけ考古館に来ていただいて、私たちが直接ご案内をするというようなことを心がけております。</p>
考古館長	<p>わかりました。やはり、あれだけの出土品を見てもらうということが非常にインパクトあるかなと思います。では、そういうことはずっとしていたということですね。</p>
委員	<p>そういうことです。</p>
委員長	<p>そうですか。わかりました。ありがとうございます。</p>
教育長	<p>考えてみますと、私が考古館にお邪魔するときは、県外の友人が来たときに、案内していくようなことが確かに多いと思います。</p>
	<p>新たな広がり東京の府中市の 5 年生が、体験学習ということで、八ヶ岳一体でいろいろな体験をします。それで、全校ではないけれど、その内の何</p>

委員長	<p>校か、考古館に来て、体験活動をするようになりました。かなり一生懸命勧誘しました。できたら子どもたちに考古館で中学生にガイドをさせてくれというような、子どもたちが子どもにというようなお願いをしていますが、まだ向こうの計画が出てこないというところで、やはり同じ中学生小学生で来てくれる、そこに茅野市の子どもが関わるってことで、子どもも成長しているということで、今年初めての試みですが、10月に1校来るということです。</p> <p>いいお話ですね。いわゆるここにとってのインバウンドであるわけですから、そういう機会を利用して、外の人たちとも話をしてもらおうと、この子どもたちも良い経験ができると思います。大変でしょうがよろしく願います。</p>
委員	<p>・八ヶ岳総合博物館（博物館館長）</p> <p>いつもながら充実していて、素晴らしいと思います。今ここに、チラシがあって、QR コードの市民科学プロジェクトっていうところを見てみたのですが、その市民科学プロジェクトっていうのは何かもっと大きな組織でやっているところに茅野市の活動も入っている。そういう感じと理解しているいいですか？</p>
博物館長 委員	<p>その通りです。</p> <p>他の地域での活動の情報もあったので、確認しました。</p> <p>次に、こどもの教育や子育てに関して茅野市はたくさん行事があると思いますがそれを知ってもらうことが、とても大変と思っています。それは双方の努力だと思います。発信者が発信しないとわかりようがないですが、積極的にやるには限界があるので、市民の方も、忘れずに、何か情報を取りたかったら博物館のページと見るとか、双方のアクションがあると良いと思います。例えば市民研究者もいますからその研究者の中に、SNSのような情報発信を趣味にしているような方がいて発信していただければ、活動がわーっと広がることもあると思います。だから情報発信の方法を市民研究者向けの研修などがあればよいと思います。</p> <p>博物館のホームページをイベント探しに見てみました。確かに6月のイベントはとてもたくさんありましたが、参加方法は少し分かりませんでした。確かに最低限、イベントのことが書いてなければいけません。慣れていない人にもわかりやすい工夫が必要です。こういうことには才能も必要なので、市民でそうしたことが好きな人が入ってくれるといいですね。やっぱり市からの情報発信も工夫が必要な時代に入っているし、市民の方も市からの情報発信があることを知らないといけない。やはり双方に努力が必要と思いました。</p> <p>最近思ったのは、後10数年くらいは、まだまだシニアの人口が増えてくる時代だと思うのです。子どもはどんどん減っていますけども。そうすると、現役を引退して、ちょっと時間に余裕があって、何かボランティアとかそういうものをやりたいなって思う人たちがこれからどんどん増えていく時代なのかなと思います。ですから、それをしっかりと受け皿がありますと知っててもらわないといけないと考えています。人口減少、少子高齢化とばかり言っていますが、これからアクティブシニアがどんどん増えて</p>

博物館長	くる時代が 20 年ぐらい続くと考えると、文化芸術を理解する力と時間の両方を持ち合わせたシニアが増えてくる時期が来るんじゃないかと思っています。
博物館係長	ありがとうございます。広報ちのには、今年は3ヶ月前に原稿を出すことになっており、なかなか忙しいのですが出しています。そして学習会員という制度があります。この制度について博物館係長が説明します。
委員	平成4年から博物館学習会員という制度が始まっており、会員には行事のお知らせを出しています。コロナの間、行事があったりなかったりしたものですからお知らせを出さなかったのですが、ここでまたお知らせを出すのを再開しています。協議会の皆さんにご覧いただけるように学習会員の皆さんと同じ通知を出させていただいておりますので、ぜひご覧いただければと思います。
博物館長 委員長	来ていました。何だろうと思って見たらイベントの案内でした。そうですね。知っている人たちが口コミで広げていく努力も必要ですね。うちの小学生の娘が、8月13日のイベントのチラシを持って来て、ここ行くからよろしくねっていうふうに言っていたので来ます。
委員	ありがとうございます。8月13日は「はくぶつかんの縁日」です。情熱のある人が来たら、そういう人を捕まえてとおっしゃいましたが、せっかく理科大が近いので、学生にもそんなこと話してもらって。学生たちが忙しいのは私もよく知っていますけど、その中にはそういうデジタルの能力がある人もいますので、ぜひ良い学生を見つけてください。
委員長	ちょっとでもいいのでそういうチラシなどを置いて、情報発信とかやりたいと言っていたらと。偶然見つかるかもしれない。学生たちは多分暇なんです。暇で忙しいんです。と僕は考えています。自分のやりたいこといっぱいあるので。だから、やっぱりその情報技術ってやっぱ、ちょっと特殊技能だし、でも今の子たちだから巧みにやっているし、何かねそういった力をね、スキルを使う場所って何かあるよって見せたいですね。自分だけに使うんじゃないで他の人に使うと面白い。なんかそういうような世界観でいいですね。
委員	確かに、私を含めシニアが多くなっていますけれど、この付近からツルヤさんあたりまではわりあい若い人が多いですね。せっかくそういうところなので、ぜひちょっと、学生達のことを見ていただければ、ありがたいと思います。
	一般技術の学生たちが子ども向けの科学体験、理科体験のイベントをやるっていうのが、2、3年前からあって、それがサークル化して、活動が定例化してやっています。学内で子どもたちを集めて科学体験させるのですが、博物館が隣にあるけどそこでやることを誘ったり、今謎解きイベントみたいなのをやっているの、考古館や博物館の中の展示物に謎をしかけてはどう？と誘っています。あと展示物のデジタル化っていうのは、情報系の学科があるので、実践の教材になると良いだろうと思います。そうすると、毎年の授業の中で学生たちは考えて展示していきますし、授業は毎年毎年来ますから、毎年何か展示物がデジタル系にリニューアルするっていうのは、イベント性もあるし、大学としてもリアルなものが対象でいいかなと、ずっとこの10年近く考えているんですけども、ちょっとずつし

	<p>か進んでいません。申し訳ありません。</p> <p>近いところのフィールドとしては、縄文も含めて考えています。昔、3D スキャンを使って縄文の土器を CG 化すると面白いんじゃないかと考えて少しやったりしています。</p>
委員長	<p>・神長官守矢史料館（史料館担当）</p> <p>はい。ありがとうございます。何かご意見はどうでしょうか。やはりその年の大河ドラマとの関係で、資料や来館者の関心も、違うのでしょうか。</p>
史料館担当	<p>そうですね</p>
委員長	<p>去年は、頼朝系だったとうかがいました。</p>
史料館担当	<p>去年は鎌倉時代だったので、鎌倉時代は守矢文書に結構あったので。その関係で来観者がありました。</p>
委員長	<p>今年の家康系。時代がそれだけ変わっても、史料館には古文書が幅広くあるということですね。</p>
史料館担当	<p>来年は平安時代なので、ないと思います。</p>
委員長	<p>何か是非見つけてください。何か他にございませんか。</p>
委員	<p>縄文もそうなのですが、博物館は、自分たちの地域の財産で自分たちの</p>
	<p>市民が勉強する機会を用意されているのですが、結果的に、縄文考古館や守矢史料館は地域外の人にすごく人気です。自分たちにとって身近すぎて価値が十分わからないのかもしれないかもしれません。そこで外の人から人気で注目されていると知れば、「えっ？そんなに有名なの。これ」って自分たちの財産を見直すきっかけになると思います。外に宣伝されているとことがきっかけで市民も勉強するんじゃないかって思います。</p> <p>この間守矢史料館とその周辺を、僕の兄や母は埼玉なんですけど、テレビで見たそうで、茶室を見に行きたいというので連れて行きました。これを作ったのは誰でとか、史料館を案内しました。このことは外の人に知られているんだなと改めて感じる機会になりました。ですから外へのアピールも大切だと思いました。例えば縄文考古館はとても賑わっていることを市民に知らせるようなことも良いと思います。その点で大学生は常に 1300 人くらいいますけど、地元の学生は少ないです。長野県が 20%かな。諏訪地域に至っては 10%もないかなってところなので、ほとんど 80%は県外者です。縁があってここに来たのだから、この辺の地域を知っていつ卒業してもらいたいという気持ちがあります。縄文検定に受かって卒業してほしいと思うのです。それにはその縄文検定の価値が高まらないといけないなと思います。その縄文検定そのものが世の中あんまりなくて、ここじゃないともらえないっていうふうになれば、価値って人づてに高まってくる面もあるので、広い意味でこうするというのも悪くないかな思ったりもしています。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。</p>
	<p>(4) その他</p>
	<p>事務連絡</p>
	<p>7 閉会</p>

委員長

恒例だと副委員長さんですが、ご欠席のため、私がやらさせていただきます。大変活発なご意見ありがとうございました。各三館、コロナに負けずしっかりやってこられたということをご報告いただきまして、大変心強く思いました。では、この調子で幅広い活動をお願いしたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

～午前11時30分 会議終了～